

令和七年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

一般選抜試験（第二回）【国語】 試験問題

試験時間 60分 問題は1～6ページ

注意事項

- ・ 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- ・ 問題用紙は、試験終了後回収する。

受験番号

令和7年2月23日

【一】 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

髪形や服装に関する（一）不合理な校則の存在が、各地の学校で問題になっている。時代（ア）錯誤な決まりは廃止するなど、適切な形に改めるべきだ。

文部科学省は、教員が生徒指導を行う際の手引書「生徒指導提要」の改定案をまとめた。校則を学校のホームページなどで公開し、本来に必要な規則なのか、絶えず見直すよう促した点が特徴だ。

現行版では、校則で扱う対象として「制服やパーマ・脱色、化粧」などを①レイジしているが、これらの規制に（A）お墨付きを与えかねないとして、改定版では②サクジョした。

学校には「下着は白」「生まれつき髪が黒でない場合、染めさせる」「ポニーテールは不可」などの校則が今も残っている。下着の色については、教員が目視で確認したり、違反したら脱がせたりする指導法も問題視されている。

学校生活に一定のルールは必要だが、子どもの権利や個性まで過度に規制するのは行き過ぎだ。

不合理な校則に異議を（イ）唱えようとした生徒に、教員が「内申書に響くぞ」と応じたケースもある。校則の意義を理解しないまま、守らせることだけに（B）腐心してきた学校も多いのではないか。

各学校はまず、校則が時代や社会情勢に合っているかどうかを検証し、児童生徒や保護者に意義を説明できるようにしてほしい。それができないような内容は、廃止することを検討すべきだ。

校則の見直しや制定には、生徒会が関与したり、各学級で③ヘンコウしてほしい部分を話し合ったりする形で、児童生徒が直接参加できるようにすることが望ましい。

自分たちが主体的に決めたルールであれば、守ろうという意識も生まれやすいだろう。社会の一員として、④トウジンヤ意識を育む「主権者教育」にもつながるはずだ。

「ブラック校則」とも呼ばれる不合理な校則は、1970年から80年代、各地の学校で吹き荒れた校内暴力や非行などを背景とする

管理教育の(ウ)名残と言われる。

90年には神戸市の高校で、遅刻をしないように校門に駆け込んだ女子生徒が、教諭の閉めた扉と柱の間に挟まれて死亡するという痛ましい出来事もあった。校則の順守を求める過度の生徒指導が⑤マネいた事件として注目を集めた。

手引書の改定案は、校則について「児童生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられる」と定義している。今ある校則は子どもたちのためになっているのか。各学校でしっかりと考えたい。

(社説「不合理な校則」『読売新聞』二〇二二年一〇月九日)による)

設問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直し、(ア)～(ウ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(送りがなを記す必要はない。)

① レイジ

② サクジョ

③ ヘンコウ

④ トウジシャ

⑤ マネ(いた)

(ア) 錯誤

(イ) 唱(え)

(ウ) 名残

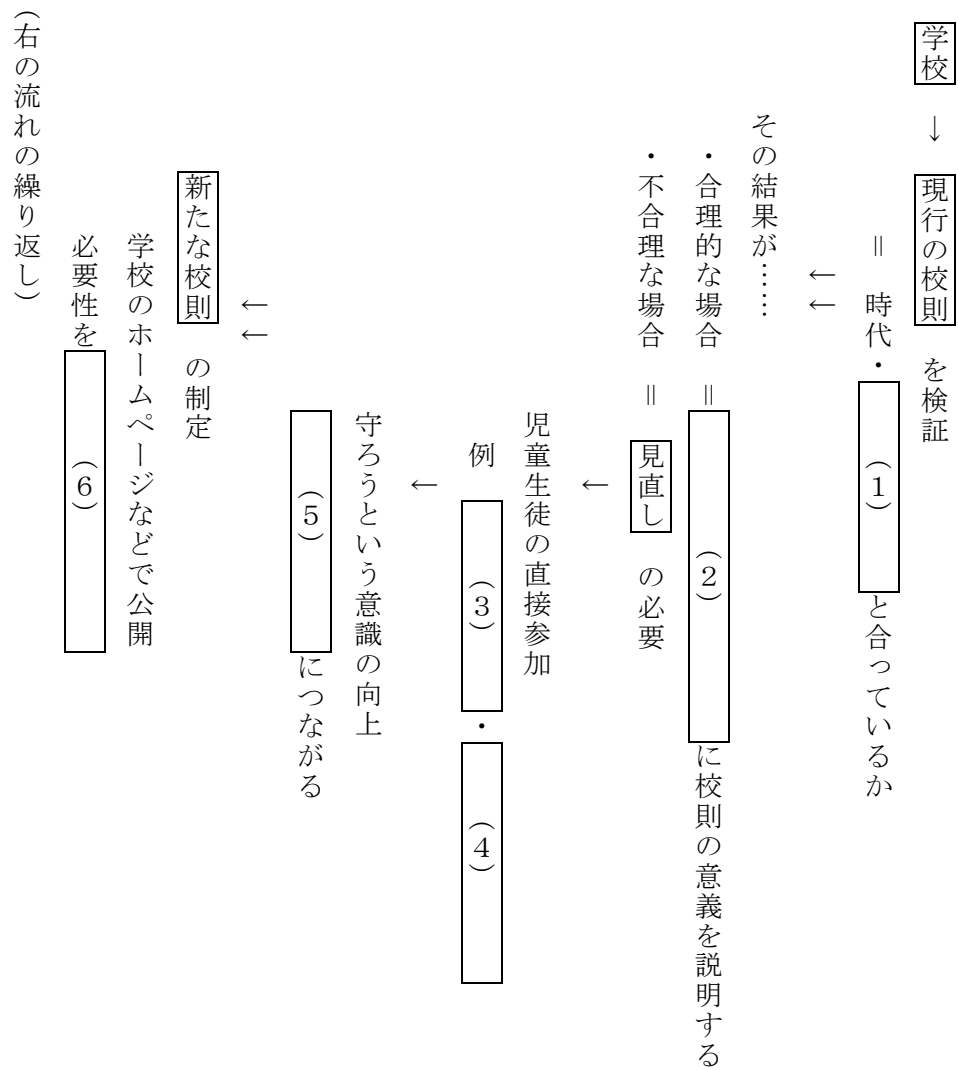
設問二 傍線部(A)(B)の言葉の意味を簡潔に記しなさい。

(A) お墨付きを与え(る)

(B) 腐心して

設問三 傍線部(一)「不合理な校則の存在」について、その根本的な問題点を指摘している部分を、本文から二五字で抜き出ささい。

設問四 あるべき校則のすがたについて、筆者が本文で説明している内容を以下のようにまとめてみた。空欄(1)～(6)を、適切な言葉を補って埋めなさい。



【二】 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

欧州各国や中韓など世界16カ国が進める国際調査の①イッカンとして、国内では一般社団法人「日本補聴器工業会」などが1万4061人を対象に実施し、最新データを「JapanTrack（ジャパントラック）2022」にまとめた。

その結果によると、聞こえにくさを自覚している人の割合は10%だった。年代別にみると、75歳以上が34・4%▽65～74歳が14・9%▽55～64歳が8・9%——などと続いた。

聞こえにくさを自覚している人のうち、補聴器を所有している人の割合は15・2%。16カ国の中では15位だった。欧州各国などの所
有率は3～5割で、日本の低さが際立った。

『難聴は生活が少し不便になるくらい』と（A）甘く考えてはいけない』

そう（B）警鐘を鳴らすのは、東海大医学部の和佐野浩一郎准教授（耳鼻咽喉科学^{いんこう}）だ。

耳から入った音は絶えず、脳内で必要なものと不必要なものが②ハンダンされており、必要な音はつきり聞き取れるように処理されている。しかし、耳が聞こえにくくなってくると「必要な音が聞き取れず、（ア）雑音が気になるなど、脳内の処理がうまくいかなくなる」（和佐野准教授）という。

このため、それを（イ）放置しておく^おと認知障害や抑うつ、睡眠障害を発症するリスクが高まる恐れがある。

英ロンドン大などが2020年、英医学誌ランセットで公表した研究によると、英国の45～65歳で難聴がある場合と、ない場合とを比べたところ、ある場合は認知症になるリスクが1・9倍に③ジョウショウ。一方、米国の50歳以上の2040人を対象にした別の研究では、補聴器を使用すると認知障害が抑えられた。

こうした健康上のリスクがあるのに、なぜ日本では補聴器の所有や利用が進まないのか。ジャパントラックの最新データからは背景が読み取れる。

まずは、リスク認識の低さだ。聞こえにくさと関連する障害にどんなものがあるのかを複数回答で尋ねると、認知症18%▽睡眠障害

15%▽抑うつ13%——にとどまった。ところが「健康に関係していない」という回答は56%にも上った。

次に挙げられるのは、受診率の低さだ。聞こえにくさを自覚しても、耳鼻科やかかりつけ医に向かう人は38%に過ぎなかった。

ただ、受診した人でも医師に補聴器の使用を④ススめられたのは英国で83%、フランスで79%、ドイツで72%だったのに対し、日本は37%に過ぎなかった。

補聴器の満足度の低さにも原因がありそうだ。日本の満足度は50%で、16カ国中で最下位。補聴器の⑤ハンバイ店を友人らに紹介したいと思っている人は6%にとどまり、購入時に不満を持った人が多い可能性がうかがえた。

補聴器は購入後、その人の耳に合わせ、常に細かな調整が必要不可欠だ。和佐野准教授は今回の調査で、補聴器の調整回数に関する質問で「0〜2回が41%」という回答に着目した。「購入しても(ウ)心地が悪いと思うケースにつながっている可能性がある」と指摘する。

その上で「加齢に伴う変化と諦めずに、補聴器が健康リスクの予防につながるということを認識し、適切に使用できる環境を医療や業界がつくる必要がある」と強調した。

(渡辺諒「補聴器所有率 低い日本」『毎日新聞』二〇二三年一月二八日)による)

設問一 傍線部①〜⑤のカタカナを漢字に直し、(ア)〜(ウ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(送りがなを記す必要はない。)

- | | | | | |
|--------|--------|----------|---------|--------|
| ① イツカン | ② ハンダン | ③ ジョウショウ | ④ スス(め) | ⑤ ハンバイ |
| (ア) 雑音 | (イ) 放置 | (ウ) 心地 | | |

設問二 傍線部(A)について同義の熟語を漢字二字で記し、傍線部(B)については言葉の意味を簡潔に記しなさい。

(A) 甘く考え(る) (B) 警鐘を鳴らす

設問三 本文をもとにした以下の説明の文章について、適切な数字(整数一ケタ)を補って、空欄 a ～ e を埋めなさい。

今回の調査結果によれば、年齢が高くなるにつれ聞こえにくさを自覚する人は増加する。75歳を過ぎると a 分の一以上が該当するほどだ。だが、自覚している人の中での補聴器所有は、 b 人に一人以下と低く、調査対象国のうち下から c 番めだ。また、自覚しても医療機関を受診しない人が d 割を超えている。この背景として、健康上のリスクに対する認識の低さがあるだろう。聞こえにくくても健康に関係していないと考える人が全体の e 割を超えている。

設問四 補聴器使用に関する望ましいあり方について、本文を参考にして以下のようにまとめた。空欄(1)～(3)に適切な言葉を補いなさい。

聴力低下がもたらす (1) を認識しておく

← 聞こえにくさを自覚したら……

・ 早めに医療機関を受診する ↑↑ 医師の適切な助言も必要となる
・ 積極的に (2) を考える

←

補聴器を購入後は……常に (3) を心掛ける ↑↑ 業界の環境整備も求められる

